



大会宣言

本日、私たちジェイアールバス関東労働組合（JTSU-B）東京分会ならびにセンター分会は、京橋プラザ区民館において第6回定期大会を共同で開催し、『職場に入った新しい仲間と積極的にコミュニケーションを取り、安全で働きやすい職場を共に構築し次の世代へ繋げていこう！！』『将来が見通せない今の職場状況からくる雇用不安を払拭し、組合員と家族が安心して働ける職場を、みんなで連帯し改善に向け取り組んでいこう！！』のスローガンを満場一致で確認し、今後の運動方針を確立した。

JTSU-Bの起点とも言える「ジェイアールバス関東不当労働行為事件」は12月5日（木）に判決を迎えることとなる。我々が東京地裁に求めていることは「全部救済命令を勝ち取った都労委命令を履行すること」である。安心して働ける健全で差別のない何でも言い合える風通しの良い職場風土をつくり出すために、本当に苦しい思いをしながら「あったことを無かったことにしない」という、信念をもって立ち上がってくれた佐藤組合員や棚倉分会、組合員や連帯する多くの仲間と共に完全勝利を目指します。

会社は上期に1億2600万の黒字を達成したが、乗務員職場では更に「稼げる」路線へなりふり構わず人員を導入する暴走化が一部で起こりつつある。東京支店においては、それぞれの乗務が終了後に、臨時のディズニー便を拘束時間の限界ギリギリまで乗務をさせるという事象が強制ではないとしても常態化している。特に組合に属さない、新しく会社に入った仲間や若手の社員は、「断れば後の昇進に影響する」等の懸念から管理者からの要請を断れず、疲れているにも関わらずに無理に乗務をする人も多い。

会社の更なる利益向上の為、現場で働く社員の安全を無視した会社のやりたい放題の施策には、しっかりとNOと言える我々労働組合の存在意義は改めて重要であり、日頃から職場活動やコミュニケーションを通して組合員同士の連帯を更に高めていく事が今後必須である。

東京駅では、子会社であるジェイアールバステックに4月から業務移管になり、東京駅で勤務しているバス関東社員は出向となった。社員の間では「バステックの社員がどんどん採用されていき、僕らバス関東の社員もいつかは東京駅から追い出されるのではないか？」という疑念や不安が増々増えている現状だ。実際に会社からも「いつかここはバステックのプロパー社員で運営する」といった事を耳にしているが、東京駅で引き続き働くことを望む社員がいることも忘れて欲しない。本人の希望通りの勤務先に社員を配置することが、社員のモチベーションにおいて大切であるということを今一度考えるべきだ。

会社は11月20日に2024年度期末手当を「基準内賃金の2.45ヶ月分とする」と回答してきた。組合員が費やしてきた努力に今までもそうだったように相反する回答に対して、私たちは落胆と怒りの感情をあらわにした。今日までの会社の一方的な施策を推し進める姿勢然り、我々の努力に報いる考えが全く見えない。

会社側の、社員を大切にしない考えが引き続き変わらないのであれば、日本国憲法で労働者の権利として定められている労働三権の適正な権利の行使も必要になってくるのではないだろうか。今までは過去の歴史から「行動権」については刀を出すことも無かった。しかしその結果が、「会社と労働者は対等」という本質がおろそかになり、今のような歪な関係を招いていると考える。私たちが多くの私鉄の様に「スト権の確立」を真剣に考える時が来たと感じる。

会社に対して真摯な姿勢でもの言えるジェイアールバス関東労働組合を実現するために東京分会・センター分会への結集を堂々と呼びかけて組織拡大・強化に向けて奮闘していこう！

以上宣言する。

2024年11月27日

ジェイアールバス関東労働組合

東京分会・センター分会第6回定期大会

東京・センター分会合同定期大会宣言を発売！

職場の声はこれだ！私たち労働者に認められている権利を理解しよう！